

角川総一流 マーケットの読み方



データを時系列で記録し続ければ
マーケットセンスは劇的に変わる

3

月からは再び「米国株高」

↓「マネーのリスク許容度復活」↓「円からドル・ユーロへ資金のシフト」というサブプライム問題表面化以前に観察されたマネーの流れとなりました。さらには日米ともに「株高」↓「長期金利上昇」というマーケットメカニズムの原則通りの動きに戻っています(図表1)。

さて4月上旬まで1ヵ月近くはわたって続いてきた「米株高」「日本株高」「ドル高・ユーロ高・円安」「日米欧の長期金利上昇」というトレンドは、調整局面に入

るとの見方が優勢になってきています。少なくとも株価の上昇と円安のピッチはやや速すぎたと見たほうがいいでしょう。

そこで今回はマーケットの解説はちょっと脇において、為替、金利、債券、株式といったマーケットを身近に感じるためのヒントをお話することにしましょう。

毎日新聞を眺めるだけでは マーケットは読めない

実は、毎日、新聞紙上で円ドル相場や日経平均株価、あるいは米国の10年国債利回りなどを念入り

にチェックしていても、それで終わってしまったら意味のないのならば、仕事に役には立たないのです。なぜなら、毎日こまめにこれらのデータを見たとしても、頭の中でこれらのデータを連続した流れとして意識することは至難の技だからです。

簡単に言いましたら、例えば日経新聞で月曜日から金曜日まで(正確には火曜日の朝刊から土曜日の夕刊まで)にわたり、「日経平均株価」「円ドル相場」「10年長期国債利回り」をチェックしていたとして、「日経平均が8800円を超えるところまで上昇して行く過程ではドルは総じて円に対して強く、101円台まで上がった(同時に長期国債10年物も1・475%まで上昇している)」というようにデータ相互間の関係を認識することはとても難しいのです。

マーケットの読み方の基本は「流れで見る」「データ相互間の関係が重要」の2つです。日経新聞を毎日ただ眺めるだけでは、これらの基本を押えることはとても困

マーケット・サマリー
多忙な人のためのエッセンス

3月からは再び「ドル高・円安」と「日米株高」がリンクしてきています。つまり、米国株式高↓日本から米国へ資金シフト↓円売り・ドル買いが復活してきた。

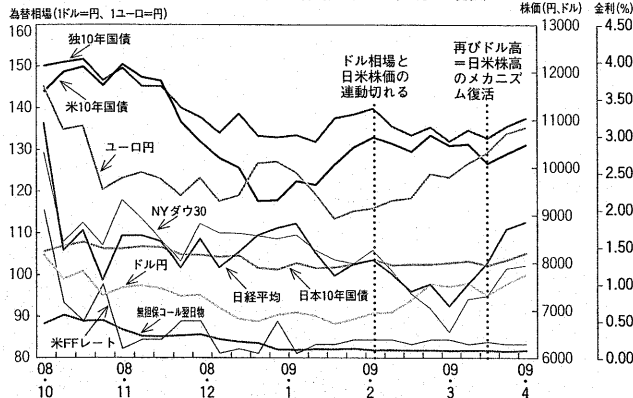
日米の積極的な財政面からの大型経済対策を素直に受け株価は上昇基調。

日米の株高が日米長期金利を引き上げるといってごく自然なメカニズムが働いている。

難なのです。ではどうすれば?

私がいま最初にお勧めしたいのは、1日に重要なマーケットデータを5つか6つでもいいから、一定のフォーマットに記入していく(し続けていく)、ということなのです。これによって初めて以上のようなマーケットデータを流れてみてみることで、異なるデータ(たとえば円ドル相場と日経平均株価)の関係を探ることができ

図表1 内外の為替と株、金利の推移 (2009年4月3日現在)



るのです。さてそのためには? もちろん罫線用紙を買い求めて自作してもいいですし、あるいはエクセルを用いて自前でこの手の表を作成してもいいのですが、まずは出来合いのフォーマットをお使いになることをお勧めします。「ペーパー」へ行けばそんなものを

売っているの?」。

「知るほど」のシートを 印刷し、新聞のデータを転記

まずは金融広報中央委員会という非営利団体が開設している「知るほど」(<http://www.shinpon.com/>)というサイトに入ります。その後の手順は以下の通りです。

左上の「金融と経済のしくみ」をクリック↓左上から4つ目の「経済と経営のデータに強くなる」をクリック↓「金融指標の見方」をクリック↓一番下の「エピソード(金融関連に慣れるためのシート)」をクリック。

ここまでくればしめたもの。「PDFファイル」と「エクセルファイル」の2通りのシートが用意されていますので、これを保存、あるいは開けば図表2のようなシートが現われるという仕掛け(?)なのです。

そこで、ここにある諸項目の中で自分にとって有用だと思う項目だけで結構ですから、新聞紙上から数字データを転記するので

す。難しいことでは決してありません。騙されたと思ってぜひ毎日、少なくとも1ヵ月間は続けください。

1ヵ月後におけるあなたのマーケットに対する感覚、センスは明らかに変わっているはず。それとともに、この連載でこれからお話ししていくことになるいろいろなもの見方がスツと頭の中に入ってくるはず。

これを利用するに際しては2つだけちょっとした工夫をしてください。

1つ、右端の欄にはその日のマーケットに重大な影響を与えるに至ったニュースなどを記します。もちろん景気関連データの発表などを含みます。

2つ、各数値データについて、

図表2 金融関連に慣れるためのシート

	国内金利		米国金利		全球経済ニュースと相場動向
	無担保 コール 翌日物 %	長期国債 10年 %	FF レート %	米財務 証券 10年 %	
1日					
2日					
3日					
4日					
5日					
6日					
7日					
8日					
9日					
...					

前日より大きくなっているところにマークをします。これによって例えば「日経平均株価が上がっているときには、10年長期国債の利回りも大体上がることは多いわね」といったことが分かるようになるのです。

今後の注目点

- 4月中旬からは米国の金融機関の決算発表が相次ぐことに要注意
- 米雇用指標がやや好転してきたことや、時価会計の見直しで米金融機関の損失が当面圧縮されることなどが好感され株高に振れているが、肝心の住宅・不動産関連指標には好転の動きなく一部に行き過ぎ感もあり
- 日米の中央銀行は長期金利の上昇抑制に意欲。このまま上昇を続ければ景気には着実に悪影響を及ぼすため